

～ 地域をつなぎ 地域とつながる ～

NEXCO東日本レポート

CSR BOOK

2022

高速道路を通じて 地域社会の発展と暮らしの 向上を支えています

NEXCO東日本グループは、
東日本地域における高速道路の
管理事業、建設事業、サービスエリア事業および
高速道路関連ビジネスを行っています。
今後も、地域・国・世代を超えた持続可能な社会の実現に向けて、
「つなぐ」価値を創造し、
あらゆるステークホルダーの皆さまに貢献する企業として
成長してまいります。

グループ経営理念

NEXCO東日本グループは、高速道路の効果を最大限発揮させることにより、
地域社会の発展と暮らしの向上を支え、日本経済全体の活性化に貢献します。

高速道路の効果

地域社会の発展

暮らしの向上

日本経済全体の活性化

高速道路事業



管理事業



建設事業

関連事業



サービスエリア事業



高速道路関連ビジネス



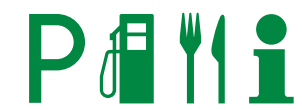
営業延長
3,943km



インターチェンジ
446カ所



スマートIC
59カ所



サービスエリア・パーキングエリア
328カ所
(うち、商業施設有196、商業施設無132)



急速充電器
154カ所

(2022年7月1日現在)

編集方針

「NEXCO東日本レポート CSR BOOK」は、NEXCO東日本グループの高速道路事業や、高速道路事業を通じた社会の持続的な発展に向けての取り組みを、SDGsの切り口からステークホルダーの皆さまに簡潔にお伝えするために発行しています。

より詳細な事業内容については、「NEXCO東日本レポート」に記載しており、当社コーポレートサイトからダウンロードいただけます。

NEXCO東日本グループが目指すCSRの姿

CSRキーワード
「地域をつなぎ、地域とつながる」

NEXCO東日本グループは、CSR経営の指針として、「NEXCO東日本グループが目指すCSRの姿」を右図のとおり定め、「地域をつなぎ、地域とつながる」をキーワードに、持続可能な社会の実現を目指したCSRの取組みを進めています。

当社グループの事業活動そのものが企業の社会的責任を果たすことにつながると考え、これからも社会の中の会社という考えのもと、持続可能な社会の発展に貢献していきます。



SDGs達成への貢献

NEXCO東日本グループは、国連が策定した「持続可能な開発目標 (SDGs)」を支持し、高速道路事業を通じて社会課題の解決を推進することで、世界の持続可能な発展を目指します。

事業活動を通じて貢献するSDGsを整理するにあたり、SDGsと中期経営計画(2021年度～2025年度)の主要重点計画とを照合して、SDGsを17の目標に紐づく169のターゲットにまで落とし込みマッピングとして整理しましたので、あわせてご参照ください。

NEXCO東日本グループのSDGsへの貢献と取組み
<https://www.e-nexco.co.jp/csr/group/sdgs.html>



NEXCO東日本グループが
事業を通じて貢献する主要なSDGs



安全・安心な高速道路空間を提供し、交通事故による死傷者数減少を目指します

■ 安全走行のための日常管理

お客さまに安全に安心して高速道路をご利用いただけるよう、日常的に点検や清掃作業を行うとともに、計画的に道路の補修を実施しています。

また、冬期の気象条件が厳しい地域を多く管理しているため、安全な交通を確保するため、除雪作業などの雪氷対策を行っています。2021年度の除雪作業延長は、年間約500,000km(地球約12周半/年)におよびました。



舗装補修作業



除雪作業

■ 交通安全・逆走防止対策

交通事故を防止するため、過去の交通事故の発生状況を分析し、急カーブ区間の注意喚起、速度抑制、車線逸脱防止などのために、さまざまな交通安全対策を実施しています。

特に、高速道路の逆走は重大な事故につながることから、高速道路本線への合流部にラバーポールを設置して無理な転回や逆走を抑制するなど、各種逆走防止対策を進めています。



ランプ合流部の逆走対策

■ 交通巡回

定期または臨時に高速道路を巡回し、渋滞などの交通状況、落下物による道路状況、気象状況などの情報を収集しています。また、異常事象が発生した時には日夜天候を問わず現場に急行し、安全かつ迅速に落下物排除、事故対応を行うため、日頃の訓練も重要になります。



現場対応の様子



規制訓練の様子

落下物などの処理数
約97,300件
交通管理巡回距離(2021年実績)
約64,400km/日(地球約1周半/日)



技術力向上とイノベーションにより、 事業の高度化・効率化を図り、快適な高速道路を実現します

■ 技術者育成

当社の技術者は技術力とマネジメント力を身につけることを基本として、実務年数に応じたカリキュラムによる各種研修を実施することで、様々な技術課題に対応できる技術者の育成を行っています。

総合技術センターでは、オンラインを活用した工学的基礎知識の講義に加え、現場から撤去した橋梁床版・舗装、土構造などの実物およびトンネル構造模型や3D・VRなどの画像映像技術を活用した体験・体感型研修を体系的に行っています。



3Dによる体験型研修

■ SMHによるイノベーションの実現

SMH(スマートメンテナンスハイウェイ)とは、高速道路の長期的な「安全・安心」の確保のために、ICTやロボティクスなど最新技術を活用し、高速道路のアセットマネジメントにおける生産性を飛躍的に向上させるプロジェクトです。

SMHツールの導入によって業務の高度化・効率化・品質向上を目指すとともに、各業務場面における意思決定プロセスの標準化を図ることで業務の生産性向上に繋げ、技術者がより知識と経験を最大限生かす「技術的思考が必要な業務」に専念できる環境の構築を目指します。



※RIMS:Road Maintenance Information Management Systemの略。道路保全に関するデータが蓄積された情報システム

■ 自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿

2021年4月28日に、高速道路機能・サービスの高度化と社会課題の解決に向けた新たなモビリティサービスを提供するために、『自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿(構想)』(以下、「構想」)をとりまとめ、次世代高速道路の目指す姿を実現するために31項目からなる重点プロジェクトを立ち上げました。

また、構想の具体化の検討・推進に合わせ、より皆さまに構想を広く知ってもらうことを目的に、愛称【moVision(モビジョン)】およびロゴマークを作成しました。愛称の意味は、「Mobility」と「Vision」を組み合わせた造語であり、ロゴマークは、未来へと向かう道を表現しています。



あわせて、構想のコンセプトを明確化するために「203X 次世代高速道路」としてイメージ動画を作成しましたので、詳細については当社HPをご参照ください。

【次世代高速道路の目指す姿】 <https://www.e-nexco.co.jp/activity/safety/future/>



いままでもこれからも、 高速道路を通じて社会を支えていきます

■ 高速道路ネットワークの整備

当社では、2005年以降これまで605kmのネットワーク及び142kmの4車線化・付加車線の整備を実施しました。

今後も、外環道(中央JCT~大泉JCT)、圏央道(釜利谷JCT~戸塚IC、栄IC・JCT~藤沢IC)などの約85kmのネットワークと、圏央道(久喜白岡JCT~大栄JCT)、常磐道(広野IC~ならはスマートIC)など約260kmの4車線化の整備を着実に進め、地域社会の発展に貢献していきます。



横浜環状南線(建設中)

■ 高速道路リニューアルプロジェクト

高速道路がこれからも社会基盤を支える日本の大動脈としての役割を果たしていくために、道路構造物の大規模更新・修繕事業を2015年から実施しています。



また、新技術の採用や移動式防護柵(ロードジッパーシステム)を活用した柔軟な交通運用などの渋滞対策により、事業実施に伴うお客さまへの影響を最小限にすべく努めていきます。



橋梁の床版取替



ロードジッパーシステム

■ 海外のインフラ整備への参画

当社は、2009年インド駐在員事務所の開設以来、成長著しいインドを軸とした海外事業展開を目指し、2019年に海外現地法人[E-NEXCO INDIA PRIVATE LIMITED(ENI)]を設立しました。

インドにおける当社グループの技術導入やこれに関連する調査、本邦企業向けのインド進出支援などを展開しており、2021年度は、路面性状測定車両[E-NEXCO Eye]をインドに導入し、12月より国道を対象にひび割れ、わだち掘れ、IRI(乗り心地の指標)などを計測する路面性状測定業務を開始しました。



E-NEXCO Eyeの測定状況

高度な舗装管理への要求が高まっているインドにおいて、最適な補修計画の立案および安全な道路空間の実現に貢献するため、路面性状測定業務を全面展開していきます。



地域と地域をつなぎ、地域とともに成長します

■ 災害に強い道路づくり

地域と地域をつなぐ大動脈として、大規模地震発生時に被災後速やかに機能を回復するため、段差防止構造、落橋防止構造・横変位拘束構造の設置、橋脚補強や支承部の補強などの橋梁の耐震補強や、盛土のり面の崩落を防止するための盛土内滞留水排除対策などを推進しています。



橋脚補強前



橋脚補強後

■ 地域との連携

SA・PAでお客さまに快適にご利用いただくため、お客さまとのコミュニケーションツールの拡充などの基本的なサービスと、接客レベルの向上に取り組むとともに、地域産品の発掘やそこでしか味わえない料理を提供するなど、地域の魅力発信に努めています。あわせて、自治体による地域振興事業に積極的に参加しています。



E-NEXCO野菜市場(関越道 赤城高原SA(上り線))



ウォークインゲート(東北道 羽生PA(上り線))

また、110カ所*に一般道からの歩行者用出入口となる「ウォークインゲート」を設置し、SA・PAを地域の皆さまにもご利用いただけるようにしています。

*2022年7月1日現在

福島県沖を震源とした地震における復旧活動

2022年3月16日深夜に発生した福島県沖を震源とした地震では、最大震度6強が観測され福島県内の常磐道や東北道において、路面のクラックや段差、橋梁の伸縮装置などの損傷が発生し、震災直後は約830kmの通行止めを実施しました。損傷した舗装路面などの応急補修を迅速に行い、地震発生翌日の3月17日15時30分に東北道全区間の通行止めを解除し、3月18日12時00分に常磐道全区間の通行止めを解除しました。



福島県沖を震源とした地震による被災直後の様子(東北道 舗装路面への縦横断クラック)



応急復旧後の様子



事業活動を通じて、環境保全・気候変動対策に取り組みます

■ 省エネルギー化と視認性に優れた照明の採用

トンネル内の照明を従来の「高圧ナトリウムランプ」から、「LEDランプ」などに変更することで、視認性の向上を図るとともに省エネルギーにも貢献しています。これまで303カ所のトンネルに設置し、2020年度は新たに17カ所のトンネルでLEDランプを設置しています。これまでに実施したLEDランプなどへの変更による使用電力量の削減は年間約3,800万kwh(CO₂削減年間約2.1万トン)と推計されます。

また、トンネル照明だけではなく道路の照明にもLEDを導入するなど、更なる電力削減に向けた取り組みも行っています。



高圧ナトリウムランプ



LEDランプ

■ 緑のリサイクルへの新たなチャレンジ「バイオマスガス化発電」

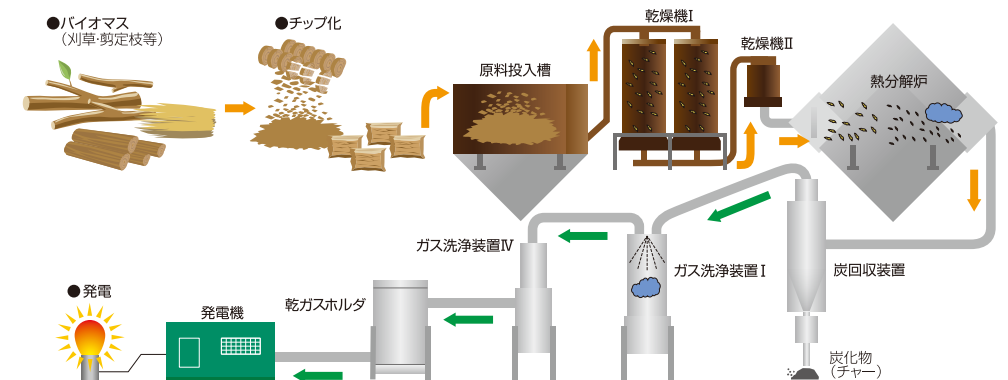
高速道路の植栽管理作業で、草刈りや樹木の剪定枝、間伐材などの植物資源(バイオマス)が発生しています。

バイオマスガス化発電では、バイオマスを熱分解炉で加熱しガスを発生させ、そのガスをエネルギーとして発電し、料金所の電力の一部として活用しています。

バイオマスを直接燃焼せず、ガス化すると残渣として炭素(炭)が発生しますので、その炭を土壌改良材等として有効活用することで「カーボンマイナス」が可能となります。



バイオマスガス化発電プラント





さまざまなパートナーシップを推進します

■ 災害対応に向けての連携

災害への対応は、ハード面のみならず関係機関との連携も欠かせません。大規模災害発生時に緊急交通路を確保し、被災地の復旧復興活動等に貢献するために、警察や消防といった関係機関と合同訓練などを実施しています。

また、各インフラ事業者とは災害時連携協定を締結し、更なる連携強化を図っています。



携帯通信事業者との連携訓練

■ オーバーブリッジ(跨高速道路橋)点検における技術支援

道路橋の維持管理に関する知識やノウハウを活かし、オーバーブリッジの点検業務や損傷診断結果を踏まえた補修計画立案、補修工事の受託のほか、橋梁点検見学会を通じ、技術者不足などの課題を抱える地方公共団体のインフラ維持管理をサポートしています。



橋梁点検作業車によるオーバーブリッジ点検



オーバーブリッジ点検(夜間)

高福連携

農業と福祉の連携である「農福連携」から着想を得た、高速道路と福祉が連携して幸福を上げていく「高福(幸福)連携」は、SA・PAの美化や植栽といった作業を協働し、障がいのある方の活躍の機会とすることで、高速道路を通じて地域社会の活性化に貢献することを旨とする取り組みです。

ダイバーシティを推進する「高福連携」は、SDGsの目標10「人や国の不平等をなくそう」への貢献にもつながります。



M E S S A G E



SDGsの達成に貢献し、 新たな未来社会に向け 変革していく

東日本高速道路株式会社
代表取締役社長 由木 文彦

NEXCO東日本グループが、これからもずっとお客さまに安全・安心・快適・便利な高速道路空間を提供しつづける企業として存続していくためには、時代の変化に敏感になり、地域や国内レベルに留まらず世界共通の課題や潮流にも対応していく必要があります。

業務の高度化・効率化・集約化を目指した経営の実現、ESGに関する取組みの推進などにより、インフラ老朽化、少子高齢化、ポストコロナ、カーボンニュートラル、ダイバーシティ & インクルージョン、世界情勢の混乱による物価高騰など、経済活動に影響を与えるさまざまな課題に対応してまいります。

なかでもSDGsは、全世界共通の課題を解決

するために設定された17の目標ツールですが、中期経営計画(2021年度～2025年度)では、当社グループの高速道路事業や関連事業と密接に関連する6つの目標(3, 8, 9, 11, 13, 17番)を主要課題として、その達成に貢献することを目指しています。

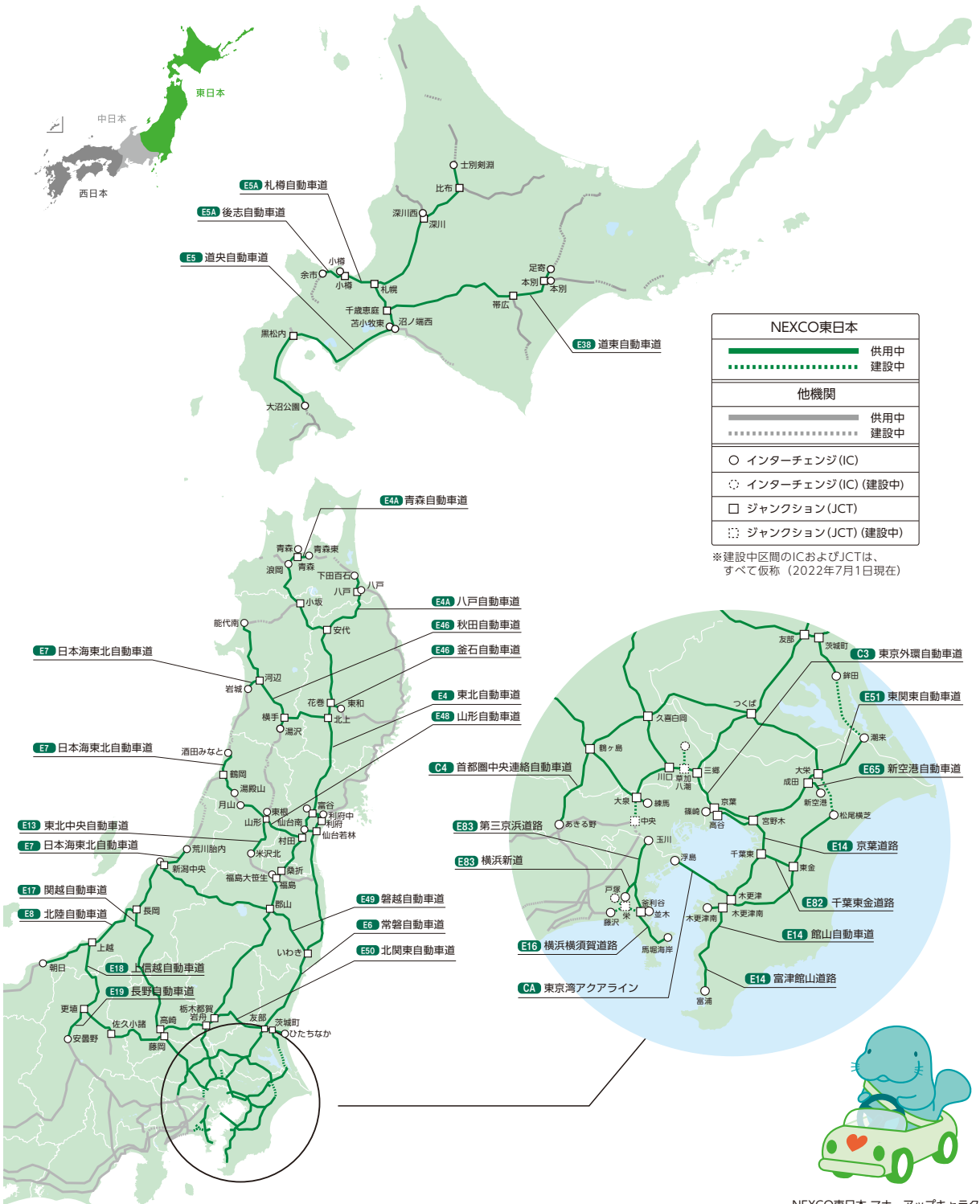
翌2023年度は中期経営計画が折り返し地点を迎えます。私がトップマネジメントを発揮し、今後より一層強力で推し進める取組み、社会経済情勢の変化に応じて柔軟に対応する取組みなどをしっかり判断したうえ、あらゆるステークホルダーの皆さまの信頼と期待に応えられるよう当社グループの成長に貢献してまいります。

NEXCO東日本に関する詳細な情報は、ホームページにて公開しています。

コーポレートサイト <https://www.e-nexco.co.jp/>



NEXCO東日本の事業エリア



NEXCO東日本	
	供用中
	建設中
他機関	
	供用中
	建設中
	インターチェンジ(IC)
	インターチェンジ(IC) (建設中)
	ジャンクション(JCT)
	ジャンクション(JCT) (建設中)

※建設中区間のICおよびJCTは、すべて仮称(2022年7月1日現在)



NEXCO東日本 マナーアップキャラクター「マナーティ」

NEXCO東日本レポート CSR BOOK 2022

発行:東日本高速道路株式会社

〒100-8979

東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビルディング(総合受付14階)

NEXCO東日本お客様センター 0570-024-024または03-5308-2424

<https://www.e-nexco.co.jp/>



本報告書は、環境に配慮し、用紙にFSC®認証紙を、印刷インキに揮発性有機化合物を含まないNON-VOCインキを使用し、印刷はアルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な「水なし印刷」で行っています。また、読みやすさに配慮された「ユニバーサルデザインフォント」を採用しています。